

議会だより

NO. 30

平成31年2月1日発行

氷川町議会

清流

ひかわ



## 子ども議会 中学生が町政課題に提案



子ども議会開催	p2~3
氷川町移住体験住宅の利用者紹介	p3
12月定例会本会議の概要	p4~5
委員会報告	p6
そこが聞きたい 一般質問	p7~10
ペルー式典報告	p11
スポット	p12



	氏名	質問の要旨
竜	上田 泰輝	未来ある産業のためツーリズム等を積極的にPRしたらどうか。
氷	稲本 眞二	青色街灯と投票式ごみ箱を設置したらどうか。
竜	河本 健太郎	自然を利用したフォレストアドベンチャー（遊園地）に取り組んだらどうか。
氷	上村 茄鈴	新しい観光事業（散策コースやキャンプコース）を検討したらどうか。
竜	東田 樹季	校外学習等に町有バスが使えないか。またSNSを活用してはどうか。
氷	栄 若菜	町を元気づけるために高齢者との交流会を開けないか。
竜	小田 稔梨	安全安心のために街灯増設や見通しのよい交差点改修はできないか。
氷	水本 りお	公園の遊具の整備とトイレを洋式化にできないか。
竜	山本 茉奈	充実した子育て支援制度を周知するため積極的なPRをしたらどうか。
氷	矢野 那奈	不耕作地解消のため更地活用や賃貸、農業イベントで関心を高めないか。
竜	吉村 智美	空地や空家を解消するためカフェや郷土料理店舗等有効活用できないか。

※竜は竜北中学校、氷は氷川中学校

# 子ども議会開催される

## 中学生が町政課題に提案

氷川中学校と竜北中学校の生徒による「子ども議会」が11月22日、町議会本会議場であり、生徒らが町執行部に地域の課題について提案型の質問をぶつけた。

太田篤洋教育長によると、「子ども議会は3年振りの開催である。3年生の社会科公民分野で地方自治を学習したのちに、4～5人毎にグループを作り、町の政策上の取組や町の課題、良さ等を調査票に記入作成し、絞り込みをして質問書をまとめあげた」とのこと。



熱心に傍聴し、メモを取る生徒も

議長は、氷川中の松本美香さんが務め、両校生徒（氷川中53名 竜北中66名）の代表者11名が登場。他の生徒は傍聴席と文化センターのモニターでその様子を視聴した。（質問項目は別掲のとおり）

最後に教育長が「学習したことを立派に提言ができた。社会科で地方自治を学んだその発展学習として、氷川町の行政と取組を学び、中学生らしい感覚で質問をした。町の活性化に向け、地域住民の生活課題、町の農業振興、高齢者問題や子育て支援など本当に町の事を考えていると驚いた。地域の未来を考えるうえで貴重な経験であったと思う。これからは、町の未来を担う若者として、ふるさと氷川町をよく学び、ふるさとを愛し誇りに思う社会人になってほしい。今後これまで以上に少子高齢化や情報化など変化の激しい時代が待ち受けている。そのような時代に生きる皆さんは、自ら課題を見つけ、その課題を解決に導くための考える力、高い志をもって何事にもチャレンジする力、創造力を身につけることが大事になってくる。自らの考えを整理し聞き手に分かり易く伝えるコミュニケーション能力を高める学習を、これからの学校生活で積み重ねて欲しい」と講評した。

また、議長の松本美香さんが「私たちの提案を議会形式で提案させて頂いた。貴重な体験を与えていただいたことに深く感謝する。すべてを行政まかせにすることなく、私たちもお互い協力し合い知恵を出しあい、より良い氷川町にしていかなければならないと感じた。今回の取組で、少しでも行政と私たちの距離が近くなり、具体的な形となって実現されていくことを願う」と謝辞を述べた。

## 氷川町移住体験住宅の利用者紹介

桑野 大司さん(36)

「研修を積んで生姜農家の経営をしたい」

柑地区にあった町下水道職員住宅2戸が30年10月に改修され、氷川町移住体験住宅として、移住を希望する人に一定期間（1年以内）に賃貸されるようになったが、早速、11月中旬から家族で入居され、農業に従事されている桑野さんを取材した。



桑野さん家族

生姜農家での研修を斡旋される。しばらくは熊本市内から通いながらの研修だったが、手応えを感じ、家族での移住を決意。現在は生姜の仕事も一段落し、八代のレタス農家で研修中。将来は「自分の畑を持ち、生姜農家として独り立ちしたい。こちらに家を求めて親子で一緒に安定した生活を送ってみたい」とのこと。

昨年11月に妻のまどかさん（熊本市出身）と娘の藝多（うた）ちゃん（2歳8ヶ月）と家族3人で宮原地区柑にある移住定住促進住宅に引っ越してこられた大司さん。北九州出身。ベンチャー企業に勤められ、東南アジアで6年ほど生活された。その間生姜などを始め農業分野業務に従事された。藝多ちゃんの誕生を機に日本での生活を希望。妻の郷里である熊本県の就農支援センターに相談。

氷川町に引越されてまだ2ヶ月。氷川町の印象をお尋ねすると「お店も近くにあり、生活の不便さは感じない。食材が新鮮で安い」「一番驚いたことは、星の輝きの美しさと夜の闇の深さ。それと朝焼けのすばらしさ」「まだ慣れていないことはリサイクルのみ出しのルール」と妻談。住宅の和室にふりそそぐ冬の陽射しよりも暖かくほっこりとしたご家族でした。

JA八代の竜北支部を通し、

（取材者 西尾正剛）



## 主な歳出の内訳

農業振興費 機能集積協力金	226万円	「農地バンク（農地中間管理機構）」を活用し要件が満たせば国から協力金が支給される。農業をやめる場合や部門縮小で担い手に農地を貸した所有者に交付される。10a 当たり3万5千円
農地費 団体営農業農村整備事業 負担金	114万円	氷川土地改良区が事業実施主体で農地客土に、国費50% 県15% 耕作者35%の負担割合（今回は5名6か所2.5ha） 
道路新設改良費 資産鑑定業務委託料	436万円	町道拡幅で土地等の取得に伴う建物、工作物の調査、補償額を算定調査の委託  町道拡張の調査地▶



（報告者 西尾正剛）  
提出されていた。年度は町当局に対し23項目規定による政策提案が、今年度は町当局に対し23項目

その他、議会基本条例の  
規定による政策提案が、今年度は町当局に対し23項目  
提出されていた。年度は町当局に対し23項目

議長、副議長ほか議会運営委員会4名は、11月15日に鹿児島県東申良町議会を訪ね、「議会活性化の取組について」を研修議題に活発な意見交換を行いお互いに学び合う有益な研修を行った。  
東申良町議会でも、議会改革を進めるうえで「議会活性化対策調査特別委員会」を設置し、議会の使命と機能を果たすため、活動等

の基本的な事項を定める「議会基本条例」を平成26年4月に制定している。  
更に、基本条例制定と併せて議会災害対策本部設置要綱も制定している。これは東日本大震災を教訓に、災害時における議会、議員の役割を定めた危機管理体制を要綱に規定したものである。  
また、平成27年には「町民と議会との意見交換会」を実施。各種団体への参加呼びかけや広報により開催されたが、残念ながら1回のみで開催で終わっている。休日議会も平成27年に2回、一般質問の審議を行っている。参加者は第1回が70名、第2回が32名と半減し、その以降は開催されていない。開催を継続する難しさを感じた。

## 議会運営委員会視察報告

# 12月定例会本会議の概要

## 一般会計補正予算

26,315千円を可決



一般会計補正予算 全員賛成

## 一般会計

26,315千円を補正し  
77億1,371万5千円に

## 12月定例会の一般会計補正(歳出)の 主な事業内容

小学校空調設備工事実施設計業務委託料	709万円
資産鑑定業務委託料	436万円
葉山橋橋梁改築工事請負費（追加）	175万円
栄久橋3号橋梁改築工事請負費（追加）	245万円
団体営農業農村整備事業負担金	114万円
機構集積協力金事業費補助金	226万円
町営住宅修繕費	300万円
臨時福祉給付金事務費返還金	435万円
障がい者自立支援給付費国・県負担金返還金	303万円

## 主な歳入は

・土木費の国庫補助金として防災・安全社会資本整備交付金	293万円
・教育費の国庫補助金として冷房設備対応臨時特例交付金	181万円
・県補助金では、農業農村整備推進交付金	114万円
機構集積協力金事業費補助金	226万円

【なお、中学校空調設備設置事業は合併特例債を充当する予算であったが、国の補正予算で冷房設備対応臨時交付金の新設されたことに伴い、学校教育施設等設備事業債（充当率100%、元利償還金の交付税算入60%）が活用でき、940万円組み替えを行った。】

12月定例会は、10日から14日までの会議期間で開催した。予算では、平成30年度一般会計補正予算（第4号）及び平成30年度国民健康保険特別会計補正予算（第1号）と平成30年度介護保険特別会計補正予算（第3号）また、平成30年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について。  
熊本県市町村総合事務組合規約の一部変更については、加入団体の名称変更に伴う改め。土地売買契約の締結については、野津多目的広場（仮称）整備事業の用地取得。議案については、各常任委員会審議を経て、全員賛成で全議案を可決した。  
一般質問は、2日目の11日に4人が登壇したが、吉川義雄議員が、今後のごみ処理及び生ごみを燃料資源としたまちづくり、河口涼一議員が八咫図書館運営状況、西尾正剛議員が道路整備基本計画の進捗状況、米村洋議員が八代市・氷川町循環型社会推進協議会設置後の状況について質問し、議論が交わされた。諮問では、氷川町宮原の小田修氏を人権擁護委員候補者としての推薦について。  
また、熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙については、選挙により片山議員が当選した。所得税法第56条の廃止を求める意見書提出を求める請願書が八代民主商工会婦人部長から提出を受けた（紹介者 吉川義雄議員）賛成少数で不採択となった。



片山 裕治 委員長

当委員会に付託された案件は、予算4件。

当委員会は12月11日役場大会議室で、関係課長より説明を求めながら審査を行った。

平成30年度氷川町一般会計補正予算のほか、3件の特別会計補正予算

付託案件は、採決の結果、全員賛成で原案のとおり可決すべきものと決した。主な質疑については次のとおりである。

議案第46号 平成30年度氷川町一般会計補正予算(第4号)について

米村議員 農業振興費、負担金補助及び交付金の2,264千円の内容について。

農業振興課長 機構集積協力の経営転換協力金で、6件の申請分で、面積により金額は違うが集計の金額となる。

米村議員 中間管理機構の事業なのか。

農業委員会事務局長 農家がリタイヤするときや、作物の一部をやるるときに農地中間管理機構を経由して、担い手に農地を貸したとき、貸主に対して協力金が交付さ

清田 一敏 委員長

当委員会での付託案件は予算1件、その他2件。

当委員会は、12月12日役場大会議室で、関係課長より説明を求めながら審査を行った。

付託案件は、採決の結果、全員賛成で原案のとおり可決すべきものと決した。主な質疑については次のとおりである。

議案第46号 平成30年度氷川町一般会計補正予算(第4号)について

吉川議員 繰越明許費の宮原小学校ほか2校空調設備設置事業で、期間が5ヶ月間必要との説明だったが、何月に終わる予定なのか。

学校教育課長 設計委託になる。議決後、入札に入り契約となるが、今年度3ヶ月間しかなく難しいので、工期を5月までと考えている。

吉川議員 その後、新年度で予算化していくことになるのか。

学校教育課長 そのとおりである。

議案第51号 土地の取得について

吉川議員 取得価格から面積で割り戻した金額が単価になるということでよいか。



生涯学習課長 そのとおりである。

吉川議員 何回、地権者と交渉したのか。

生涯学習課長 生涯学習課として会い、3回目を目途がついた。

木下議員 購入後は、宅地として考えないといけないと思うが、田を買ったのに高い方ではないか。

生涯学習課長 判断基準として、宅地価格を参考にさせてもらった。

木下議員 公的な税金を使うので少しでも下げた値段でということころもあるが農業委員会の方も参考にしたのか。

生涯学習課長 農業委員会の方も参考にした。地域で違う部分もあるが、根拠を残さなくてはならない。偏らない価格で交渉していく必要がある。

そりが聞きたい

一般質問 4議員 立つ

議員 八代市では八代環境センターが10月から本格稼働し八代市内のごみ処理が始まった。2025年度から氷川町のごみ処理も八代環境センターで処理することで協議が行われているが、氷川町のごみ処理は決まったか。

町は5月の町政懇談会で「ごみ減量化は町や町民にとって避けて通れない喫緊の課題『現状の1割カット』をすすめていく」と表明されたが、現状はどうなっているか。

ごみの減量化は長年の課題で「混ぜればごみ、分ければ資源」ということから分別収集を強化してきた。また、生ごみを減らすとごみコンポストや生ごみ処理機の購入費助成などを行ってきたが、これまでの減量化対策をどう評価しているか。

氷川町総合振興計画では、資源の再利用の推進、廃棄物の処理や再利用の推進を掲げているが、今後のごみ減量化の具体的な取り組みはどう

考えているか。

町民環境課長 平成30年7月に八代市環境センターの供用が開始されたため、市のクリーンセンターのごみ処理は氷川町だけとなった。

八代市・氷川町循環型社会形成推進協議会で、氷川町も含めたごみ処理対象地域とした新たな地域計画を策定し、クリーンセンターの廃炉及び最終処分場の閉鎖後は、氷川町のごみも八代市環境センターに委託し、処理することで協議している。

協議の中で、クリーンセンターでの処理は2023年度までと考えている。

議員 八代市環境センターで処理することは正式に決まったのか。

町民環境課長 2023年度の八代市議会並びに氷川町議会で事務委託の同意議決後にしか正式には決まらない。

協議状況を議会や町民にも分るようにして頂きたい。氷川町のごみ処理状況を調べたら合併時と比べると家庭ごみは減っている。が事業所から出るごみが増えている。事業所のごみ減量が特に必要ではないか。

町民環境課長 事業系ごみがかなり増えている。減量化については各事業所を戸別に訪問し減量化に努めていきたい。

議員 ごみ処理機をもっと使ってもらったらと思う。事業所のごみ処理機の購入助成金引き上げの考えはあるか。

町民環境課長 事業所の生ごみ処理機助成制度を検討している。

議員 生ごみから発生するメタンガスを使って発電し、電力は地元で消費する。生ごみを液肥に変え地元の農業に生かした取り組みを行っている自治体が増えている。

福岡県みやま市はエネルギーの地産地消として太陽光発電をはじめ、ごみを資源にして発電、液肥化をすすめ、全国から注目を集めている。

福岡県大木町は、生ごみを資源したまちづくりに取り組んでいる。将来を見据えた場合一つのまちづくりとして一考に値するものと考えられる。町民にさらに減量化に向けて取り組みをしていただきたいと思う。町も支援はやっていきたいと思う。町の方策を考えましようとした。町も支援はやっていきたいと思う。町も支援はやっていきたいと思う。

氷川町も含めて八代市も一緒にごみを焼却処分する方向である。大前提があるので生ごみの資源化への方向転換はむずかしいと思っている。生ごみの資源化は、さらに検討は進めていきたいと思っている。

Q：氷川町のごみ処理について A：クリーンセンター処理は2023年まで



吉川 義雄 議員





西尾 正剛  
議員

**Q : 町道新田野津橋線の道路拡幅の計画はあるか。**  
**A : 整備に向け隣接地権者の同意をとるべく、地元区長と協議をしている。**



野津橋線の混み具合

**議員** 平成22年度に町民意向調査を実施し、平成23年度に道路整備基本計画を策定したが、整備時期は概ね10年以内に事業完了、または着工、中期20年以内、長期30年以内、超長期30年以上の4期間に区分されている。  
この基本計画での新規路線の取組がないが、現在の計画状況や先行して用地取得等どう行われているか？  
また、短期10年以内の既存路線計画も数本あるが、現在の進捗状況はどの

道路整備基本計画の新規路線の取組がないのはなぜか。進捗状況は？

**議員** 中期20年以内の町道新田野津橋線の道路整備計画は、国道県道に準ずる南北を縦貫する主要な幹線町道であり朝夕の交通量も相当多い。しかし、途中で狭隘な所が数カ所あり、車両通過を待つ必要がある。  
野津橋を通過して200m位の間は狭く、離合の場所もそうない。取りかかれるところから用地取得して道路拡幅を計画したらどうか。  
**建設下水道課長** 町道新田野津橋線は、八代市道に連結する町の幹線道路である。熊本地震後、通行量が増加してお

町道新田野津橋線の道路整備計画は、どうなっているか？

り、離合しにくい区間もあり、危険な状況となっている。野津橋線は、平成24年に側溝整備で拡幅し、平成27年に74mの道路改良を済ませた。  
北野津地区より集落内の狭小区間と野津踏切の西側交差点から野津橋までの区間の整備は平成25年度に地区要望が出され、道路整備計画に向け隣接地権者の同意をとるべく、現在地元区長と協議をしている。  
今後、地権者の了解を得た後、地元区長と連携し事業推進を進めていきたい。  
**町長** 道路整備計画は、安全・安心を重点において、必要な所から行っている。地区要望には、計画掲載の路線かどうか判断し整備を行っている。



河口 涼一  
議員

**Q : 八火図書館の運営状況について**  
**A : 利用者・貸出数とも減少している。**

**議員** 八火図書館の運営状況について、利用実績、入館者・来館者数や蔵書数、貸出数、また年間予算等はどうなっているか。また今後の課題と展望について説明願いたい。  
**生涯学習課長** 利用実績は、貸出数が28年度2万3014冊、29年度1万9736冊で、利用者が28年度6966人、29年度が6006人であり、いずれも減少している。図書館利用カードは、28年度2436人、29年度2751人で増加している。予算は、27年度新館設立時が500万円、以降は30年度まで各400万円である。  
課題と展望については、教育と文化の発展に寄与し、先達の意思を建言すると条例に定められているように、趣旨にそって活動している。  
図書資料の収集・整理保存、読書案内、調査研究の援助、読書会・鑑賞会及び資料点字化等、学校や東北歴史資料館と協力活動の援助を行っている。蔵書数も当初の2万5000冊から本年度中には4万冊を超える見込みである。

**議員** この八火図書館は、幼児から高齢者まで楽しめる、水川町における文化の発信拠点と確信している。このことが子育てしやすい町づくりの中心をなしていると思う。貸出し以外の利活用はあるか。  
**生涯学習課長** 学校の長期休業中に、各1回ずつお話を開催している。宮原小学校運営協議会により、6年児童対象に学習会・読書会を実施している。  
**議員** 図書館に行くといつも感心するが、見やすく探しやすいように整理してある。スタッフは何人で運営しているか。  
**生涯学習課長** 館長1名、図書司書2名配置している。  
**議員** 図書館のまわりも川辺づくりの会の人達が散歩道を管理、清掃と徹底されており、ありがたいと思っている。ぜひ頭の柔らかいうちに頭をどんどん鍛えていくことが大事だと思う。本に親しむことで人生を豊かにし、前向きに生きる意志を醸成すると確信する。この町からたくさん有為な人材をどんどん輩出することになればうれしいと思う。  
**教育長** 八火図書館が町民の皆様から愛されるものとして機能するために努力して行きたい。地域に密着した町民のための文化施設の拠点となるために、町内5つの小中学校、歴史資料館と連

位なのか？  
**建設下水道課長** 10年以内での新規路線整備は2カ所計画しており、宮原地区の三神宮南側の新規路線は、平成25年度に整備完了した。  
スマートICのアクセス道路接続は、ルート検討と地元調整が必要なため着手に至っていない。  
既存道路で10年以内の整備は、38路線中3路線は整備が完了している。  
整備基本計画に基づき、地区要望での整備も進めており、計画に対する進捗状況は2割程度と考える。



八火図書館

携共同していきたい。広報活動も充実させ、話題性のある新刊書、リクエスト本の検討、近隣の図書館との交流や八火図書館協議会などで協議を重ねていきたい。





米村ひろし  
議員

Q：八代市・氷川町循環型社会推進協議会の  
目的は

A：氷川町のごみを八代市環境センターで  
処理する

八代市・氷川町環境型社会推進協議会につ  
いて

**議員** クリーンセンターは、氷川町の  
単独運営になって、今後、最終処分場  
が平成35年度に大体満杯に達する予測  
がある。氷川町は八代の環境センター  
に委託をしなければならないというこ  
とで、この循環型社会形成協議会が環  
境省と熊本県を入れて設置し規約変更  
をするということではないか。

**町民環境課長** 間違いない。  
**議員** 八代市・氷川町循環型社会推進  
協議会の設置の目的は。

**町民環境課長** 八代市・氷川町循環型  
社会推進協議会は、国・県のごみ処理  
の広域化の指針に基づく協議会である。  
ごみ処理対象地域とした新たな八代  
市・氷川町循環型社会形成推進地域計  
画を策定して、クリーンセンターの廃  
炉及び最終処分場の閉鎖後は、氷川町  
のごみを八代市環境センターに事務委  
託により処理することを目的としてい  
る。

ごみの減量化について

**議員** 策定要綱に、ごみの減量化が一  
番の課題である。事業ごみと家庭ごみ  
で、家庭ごみは減ったというが、総合

的に、数%増えている。今のままであ  
れば、事業計画の策定ができるのかと  
危機感を持っている。八代市は10年ぐ  
らい前から5%の減量化の目標を立て  
て努力をしている。氷川町でも前に水  
切りパット、全所帯に配布した。その  
費用対効果はどうだったのか。

**町民環境課長** 詳細は把握していない。  
ただ家庭ごみの減少があるので、幾分  
かは役に立っていると考えている。それと  
水を切るという行為がある程度町民に  
も浸透していると思う。

**議員** 八代環境センターは134トン、  
稼働日数280日間というのが地域計  
画の中で決まっている。八代環境に処  
理していただけののなら、うちが積極  
的にごみの減量化に努めなければ、地  
域計画の策定は難しいと認識をしてい  
るがどうか。

**町民環境課長** 地域計画の中で、ごみ  
の減量化の達成が重要な役割を示すこ  
とになる。

**議員** 生ごみは、7割から8割が水分。  
水切りパットを有効に使う。平成21年  
度に、ごみ処理機の補助事業で、75台  
が発注あったが、それ以後はほとんど  
ない。ごみ減量化の指導をするべきで  
はないか。

**町民環境課長** 年明けにごみの減量化  
宣言をし、ごみの減量化を呼び掛けて

いく予定になっている。

**議員** 氷川町でのごみの減量化10%  
だったら380トン減量しなければい  
けない。  
努力して頂きたい。

**藤本町長** 私たちも緊張感持ってやっ  
ていかなければならないことである。  
平成35年にクリーンセンターを廃炉す  
ることは既に確認済みなので、そこま  
でに10%減を達成しなければならぬ。  
今後あらゆる手段を使ってごみの減  
量化を進めていきたい。具体的に数値  
化して毎年の計画目標をもって進めて  
いきたい。



クリーンセンター

## 熊本県ペルー移住 115周年記念式典に出席

報告者 上田 健一

熊本県人ペルー移住115周年記  
念式典が首都リマ市で開催されるこ  
とになり、氷川町にも公式招待があ  
り、この記念すべき式典をお祝いす  
るために藤本町長と出席しました。  
11月6日から13日まで移動を含め  
て8日間の訪問でした。熊本県人の  
ペルー移住者数は沖縄県に次いで2  
番目だと聞いておりました。移住当  
初は、言葉、食事、生活習慣の違い  
や過酷な労働や風土病など劣悪な環  
境に置かれ大変ご苦労をなされたよ

うですが、その後着実にペルー社会  
での地位と信頼を築いてこられまし  
た。

記念式典会場は、日干し煉瓦で建  
設されたピラミッドの遺跡内でした。  
発掘途中の遺跡内で式典が開催され  
ることに驚くとともに、絨毯を敷き  
詰めた特設テントが設置され、外務  
大臣やアジア大洋州局長などペルー  
共和国の要人、在ペルー日本大使館  
公使、日秘協会会長など多くの来賓  
やペルー熊本県人会会員など約  
430名が出席し盛大に開催され、  
現地での熊本県人の活躍ぶりに目を  
見張る思いでした。式典閉会後の懇  
談会ではペルー芸能が披露される中、  
最後はお国ながらの陽気なリズムの  
ダンスが延々と続き、私もそのダン  
スの輪に入り、足もフラフラになる  
まで県人会の皆様との交流を楽しみ  
ました。

この度の公式訪問では、記念式典  
のほか、ペルー共和国外務大臣及び  
外務省アジア大洋州局長の表敬、大  
統領府視察、熊本県と訪問・交流が  
行われている学校の訪問、熊本県人  
会の平岡ペルー熊本県人会名誉会長  
が経営される家電量販店や世界遺産



に登録された旧市街地を視察しまし  
た。各所を移動する際には、私たち  
が使用したバスの前後を警察車両が  
誘導し、白バイが交差点での横から  
の車両を制止するなどしていただき  
ました。リマ市内を走る車両は増加  
の一途にあります。交通インフラ  
の整備が追い付かず、目的地に移動  
するまでの所要時間が読めないため  
平岡名誉会長が警察当局に依頼し、  
特別の厚遇をしていただいたと後で  
お聞きしました。これまでのペルー  
社会における日系人の貢献が認めら  
れている証しだと感じたものでした。

平岡名誉会長は115周年記念誌  
に『大きく早く変化していく我々の  
時代では、言葉よりも行動により模  
範となって伝授していくことが大切

です。困難な時代にもかかわらずよ  
り良い未来を築く機会を与えてくれ  
たペルーに感謝します』と寄稿され  
ていました。同じく、平岡ペルー熊  
本県人会長は、『初期の移民たちは、  
115年前に子孫がよりよい生活を  
送れるようにという夢を抱き、厳し  
い経済状態の中で、持ち前の日本人  
の精神で逆境を乗り越えられました。  
友人に忠実であるとともに家族を大  
切にする英雄でした。祖先の犠牲と  
教えのお陰で、現在、子孫である私  
たちは、このペルー社会で尊敬され  
る地位を築くことができました。全  
ての「おばあちゃんたち、名もなき  
英雄たち」に、心から感謝の気持ち  
を伝えたいと思います』と述べられ  
ていました。

この訪問を通して、日系人の皆様  
が遠く離れていても日本の伝統や文  
化を大事にされておられ、私たち訪問  
団を温かく歓迎していただいたこと  
に感謝し、そしてペルー社会への感  
謝の念を忘れず、貢献し続けること  
による地位と名誉を確立されている  
ことに感銘し、故郷を思う気持ちを  
再認識した訪問となりました。  
2019年にはペルー熊本県人会は  
創立100周年を迎えられます。ペ  
ルー熊本県人会の益々のご隆盛と皆  
様の活躍を期待し、今後も更なる  
交流を継続する必要があると感じた訪問と  
なりました。





# スポット

## 八代ジュニアスターズ

私達は、小学生の育成を目的とした学童軟式野球クラブチームです。

現在、選手は氷川町の1年生～6年生まで28名、八代市から2名の計30名で活動しています。練習場所は、主に竜北西部小、桜ヶ丘グラウンドで、日々楽しく、時には厳しく練習を行っています。チームの方針は、礼儀を正しくできる子供の育成を目的とし日々指導を行っています。

昨年は数々の大会で優勝や上位に入る事ができました。又、夏には九州大会にも出場を果たし、チームから初の750人位応募の中、16名選出にプロ野球ソフトバンクホークスのジュニアの部に志水那優君が選出され、年末に行われた札幌ドームで12球団ジュニアの大会に出場されました。

今後も子供達の育成、活躍を願い日々努力をしまいいりたいと思います。日々練習の体験会など行っていますので、是非野球に興味がある八代市郡の保育園年長さん～新6年生の男女の皆さん、お待ちしております。

代表兼監督 野村利昭  
連絡先 090-5027-8661

所属チームをはじめ、たくさんの方に応援していただき、本当に素晴らしい貴重な経験をすることができました。ありがとうございました。



NPB 12球団  
ジュニアトーナメント2018出場  
12.27(木)～29(土)札幌ドーム

志水那優さん

竜北西部小6年  
ポジション ファースト・キャッチャー  
右投げ 両打ち

### 編集後記

「字が小さすぎて読みにくい・文字が多い・原稿詰めすぎで読む気になれない」11月13日、熊本県町村議会広報研修会に出席し

ました。事前に議会だよりを送り、熊本大学教授の越地先生の診断を受けましたら、こうした審査コメントを頂きました。

広報は何を載せるかの前提として、何を捨てるかが重要みたいです。

一般質問の原稿も、あれこれ大事な文言と思って書くうちにすぐ2000文字を超えてしまいます。そこか

らが大変な作業です。そこは心を鬼にして大胆に取捨選択する必要があります。

議会だよりは、町民の皆さまにわかりやすくお伝えして知って頂くことと考えていますが、毎号中々難しい課題です。(西尾正剛)

発行責任者	議長	上田健一
委員長		西尾正剛
副委員長		木下厚
委員		片山裕治
委員		清田一敏

次号は平成31年5月発行予定